

平成21年度 佐賀県立致遠館中学校 学校評価結果

1 学校教育目標				
未来社会の文化の創造と発展に力をつくす、豊かな人間性と進取の気性に富む若人を育てる。				
2 学校経営ビジョン				
(1) 中高一貫教育校として、6年間を見通した効果的な学習指導・進路指導・生活指導の組織的な方を確立し、6年間のゆとりという利点を生かし、生徒一人ひとりの個性と能力を育てる学校づくりを進める。 (2) 6年間の指導計画の中で、経験や体験を大切に教育活動を重視し、自ら考え、調べ、発表するなどの能力を育て、専門的に学んでいくための高い能力を備えた人材を育てる。 (3) 生徒が高い意識を持って将来の夢・目標をしっかりと定め、それを達成すべく手厚い指導をしていくことで進路実現を図る教育を進める。特に、中高の接続をスムーズなものにし、生徒自身の内発的動機に基づく進路選択を図る。 (4) 保護者や地域との連携を図りながら、開かれた学校づくりを進める。				
3 本年度の重点目標		4 前年度の成果と課題		
(1) この6年間の進路指導の実践を整理して体系化しさらに改善します。 (2) 高校で実施するSSH事業への理解を深め、適切な進路選択を促すために、中学生へのガイダンスを実施します。 (3) 生徒一人一人の特性に応じて、高校での学習に必要な基礎的学力及び応用力を養成します。 (4) 日常的な生徒の生活を把握し、問題行動の防止に努めます。 (5) 生徒の自主的活動を支援し、発展させます。		各項目とも一定の成果を出すことができた。特に、学校経営目標、部活動、SSH研究、体験活動で高い評価が出た。さらに、中高一貫の特色を生かした目標の設定が求められる。また、各具体的方策が学校運営の改善にさらに効果的につながるように、全職員の共通理解と共通行動を徹底する。		
5 総合表				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	評価及びその理由
学校運営	学校経営方針	本年度の重点目標の周知 保護者、地域との連携	・保護者の90%以上が本年度の重点目標を知っている、または見たことがある。 ・後援会総会、学年保護者会及び学校評議員会を活性化させる。	A アンケート調査で保護者の95%程度が本校の教育方針を理解していると答えている。
	教職員の資質向上	教科指導法研究と指導力の向上 各種職員研修を通して生徒対応力の向上	・授業研究会を各教科1名以上は実施する。また、定期的な教科部会を充実させる。 ・教育相談や人権・同和教育の職員研修を通して、総合的な生徒対応力を向上させる。	B ・授業研究会は各教科1回以上は実施できた。 ・教育相談や人権・同和教育の職員研修会をそれぞれ1回ずつ実施した。
	開かれた学校づくり	公開授業の推進及び情報発信	・各学期1回以上の授業公開・授業参観等を実施する。 ・ホームページの早期更新、EDQスクールニュースの毎月更新を実施する。	B ・1日授業参観日やエリア・スタディの全体発表会などを実施し、保護者の参加の機会を設けたが、参加者数は決しておこななかった。
教育	学力向上	基礎的学力の定着の徹底 応用力の養成	・高校での学習に必要な基礎的学力及び応用力を養成する。 ・自発的学習習慣の定着と家庭学習の充実を推進する。	A ・基礎的な学力の定着は、実力テストや外部テストの結果から十分に図られている。 ・全国、県の学習状況調査では、ある程度の結果を残すことができている。
	進路指導	中高一貫教育における進路指導の研究	・中学校における系統的な進路指導を研究する。	B ・各学年前年度を踏襲する指導が主で、取り組みの時期も定着化し、資料も活用しやすかった。中2実力テストの目的を変更したことで、生徒の学力状況の把握がしやすくなり、当該学年だけでなく過年度比較など、今後の指導にいかすことができる。
	心の教育	情操の豊かさ育成	・教職員の共通理解のもと、機会をとらえて実践する。	B ・道徳の公開授業は各学年工夫を凝らし取り組むことができた。 ・人権・同和教育講演会は、職員及び生徒に好評であった。
	健康・体づくり	望ましい生活習慣の形成	・睡眠・食事についての指導を推進する。朝食喫食率を98%以上にする。 ・学業・部活動の両立を推進する。	B ・朝食喫食率は93.7%(5月)から95.6%(11月)に上昇したが、目標には到達できなかった。
	生徒指導	中高一貫教育の特色を生かした「心」を育てる 生徒指導の確立	・生徒の規範意識の向上させる。 ・「自配り、気配り、心配り」をスローガン(生徒目標)として思いやりの心を育成する。	B ・年間を通して、落ち着いた学校生活を送ってくれたが、規範意識の向上という点では、十分ではなかった。一部の生徒であるが軽はずみな行動、心配りが「思いやり」出来ない問題行動が見られたのは残念であった。
	部活動	部活動による学校の活性化	・部活動加入を推奨する。 ・あいさつの励みやマナーアップを図る。	B 90%を超える部活動加入率であった。部活動を通しての学校生活の向上については十分とはいえない。
	生徒会活動	生徒の自主的活動の重視	・生徒による企画、運営に取り組み、生徒の自発的活動を発展させる。	A 様々な行事を計画的に取り組むことができた。また、生徒の自発的活動も活発化した。
	教育相談	学校不応生への早期の援助 発達障害への理解の深化	・専門機関との連携を図りながら、生徒の心に自立の芽を育てる。 ・発達障害について理解を深め、個々に応じた対応を行う。	B ・定例の部会によって共通理解を図るよう努めたが、学年を超えた支援までには至らなかった。 ・不登校の生徒や保健室登校の生徒への対応をさらに充実した取組にする必要があった。巡回相談を実施するなど専門機関への連携はできた。
	保健厚生	心身の健康増進と環境美化	・治療勧告生徒の受診率を4.5%以上とする。 ・環境美化、ゴミの分別・減量化を徹底する。	B ・新型インフルエンザの影響で、受診の督促が十分できず、受診率は26.2%である。 ・環境美化の取組については、生徒自身の評価が前年度より若干低下した。
	研修	校内外研修の充実	・研修の円滑な運営と検証をする。	B ・生徒校外研修について、該当学年と研修部が連携して実施できた。 ・全職員の協力を得て、人権・同和教育の職員研修を実施した。
特定課題	図書	読書による豊かな心の育成	・朝読書を充実させる。 ・広報活動を強化する。 ・学年や教科との連携を図る。	A ・週2回の朝読書では、生徒達が自発的に活動し、読書への関心を高めていった。今後も継続していきたい。 ・図書館行事や図書委員会の企画行事等で図書委員が積極的に活動した。
	中高一貫	中高一貫教育の成果の伸張と課題の克服	・有意義な6年間となるように進路指導の充実を図る。 ・中高一貫教育研究委員会を定期的開催し、改善に繋げる。	B ・上級学年への意識を高め、計画的に進路説明会を実施することができた。 ・不定期ではあったが、研究委員会を開催することができた。
	SSH研究	自然科学への興味喚起	・チャレンジセミナー(理科特別講座)、SPP事業を充実させる。 ・高校のSSHに接続する中学校の選択授業を充実させる。	A ・チャレンジセミナーには2年生、SPP事業4講座には全学年が積極的に生徒が参加し、好評を得た。
	体験活動	エリア・スタディ(総合的な学習の時間)の充実	・エリア・スタディを通して、生徒の課題設定・課題解決能力、コミュニケーション能力、社会形成力を育成する。	B ・これまでの成果を活かし、各学年で生徒の発達段階に応じた指導が展開できたが、成果をまとめる段階で時間数の不足もあり、個人差が大き感じられた。見通しを持った取り組み方が大切である。
6 総合評価				
どの項目も一定の成果を出すことができた。学校経営方針、学力向上、生徒会活動、図書、SSH研究で高い評価であった。さらに中高一貫教育の特色を生かした目標設定が求められる。				
7 来年度の改善策				
各具体的目標・方策が学校運営の改善にさらに効果的につながるように、全職員の共通理解と共通行動を徹底していく必要がある。また、アンケート調査で「心のふれあいを大切に教育」と「生徒の先生への相談」については低い結果であり、充実した取組に改善していきたい。				